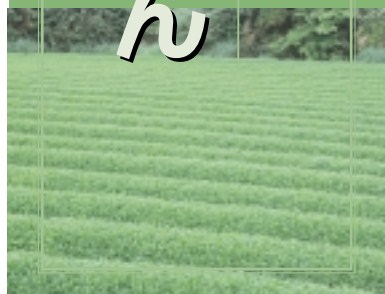


耐寒性が強い晩生品種

ふうしゅん



栽培特性が安定していて、耐寒性が強く、広い地域に適應できる晩生品種です。

品種の来歴と特徴

野菜・茶業試験場（現独立行政法人野菜茶業研究所）で育成されました。命名登録されたのは平成3年です。母親は「Z1」、父親は「かなやみどり」です。

「やぶきた」より萌芽期で7日、摘採期で5日遅い晩生です。

一番茶の芽の伸び、芽摘いは良好です。収量は、育成地での試験では、一番茶、二番茶、三番茶とも「やぶきた」の一・五倍を超え、かなり多収です。

品質の特性

一番茶の品質は、新芽の色が少し濃いため、色沢が黒みを帯び、やや劣ります。香氣、水色、滋味は大きな欠点がなく良好です。二番茶、三番茶とも品質は良好です。

栽培上の注意点

挿し木発根性は良く、定植後の活着、初期生育も優れています。樹勢、耐寒性が強く、栽培品質は良好です。耐病性は、炭そ病、輪斑病には「やぶきた」より強いですが、育成地の金谷では、挿し木や幼木期に赤焼病の発生が見られたので注意が必要です。樹姿は直立型ですから、幼木期の仕立ては「やぶきた」に準じて行って下さい。

加工上の注意点

色沢がやや黒くなるので、少し深蒸しにするなど工夫が必要です。

普及および栽培適地

「さえみどり」と育成された年次がほぼ同じで、いわば同期生になります。晩生ですから、晩霜害の心配は少なく、土壌を選ばず、全国各地の試験成績は安定してはらつきが少なく、広い地域に適應できる品種です。特に、耐寒性はこれまでの品種の中で最も強いです。

苗木の入手方法

栽培を希望する方は、地元の農協を通じて経済連など苗木生産団体へ申し込んで下さい。

命名の由来

「ふうしゅん」は漢字で書けば「富春」であり、新春の満ち足りた香味に因むとともに、多収性を活かして茶業経営を豊かに富ませる品種になるようにとの願いを込めています。また、緑茶の故郷ともいえる、中国、浙江省の杭州付近を流れる名河、富春江になぞらえてあります。



品種名	育成年	種苗登録の有無	育成場所	来歴	
				Z1	かなやみどり
ふうしゅん	1991	有	野菜茶試	Z1	かなやみどり

早晩性	樹姿	樹勢	収量性	品質			耐寒性 (赤枯れ)	耐病性 (炭そ病)
				色沢	香氣	滋味		
晩生	やや直立	強	多	中	中上	中上	強	強